

利尻山脊形登山道を登山される方へ

【重要：必ずお読みください】

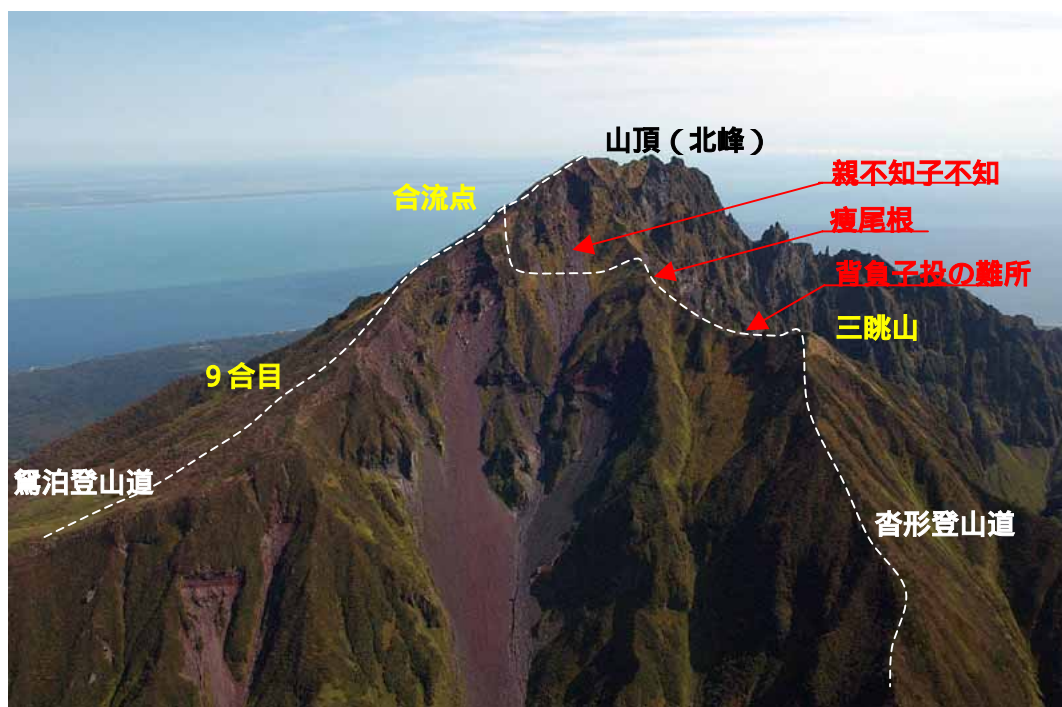
利尻山脊形登山道は、ハイキングや低山のトレッキングコースではありません。入念な登山計画、装備、技術、判断力が必要です。また、登山道入口（見返台）から三眺山まで、登山道として通常の維持補修が行われ、一般的な登山利用をすることができますが、三眺山から鷲泊登山道との合流点までの間は、滑落や落石の危険があり、ルートも不明瞭であることを承知してください。

このようなことから、初心者や低山のトレッキングを想定されている方は、三眺山から上部の登山を自粛して下さい。また、熟練した方の利用についても、以下のコース概況を十分に把握するとともに、各種登山ガイドやリーフレットも確認し、滑落・落石の危険が常に存在することを承知して、登山者自身が登山の是非を判断され、自己責任にて登山してください。

なお、霧などで視界が悪いときは、落石等の危険を察知することが困難となりますので、登山は控えてください。

以上を十分に認識し、必ず登山届を提出してから登山をしてください。無届登山は無謀登山です。

【利尻山登山道上部概念図】



【コース概況】

見返台から三眺山まで

・特別危険箇所等はありませんが、晴天時でも滑りやすい箇所や大きな段差、不安定な浮石がありますので転倒等には十分な注意が必要です。

三眺山から9合目まで

・三眺山を越えて、脆い岩壁を下る通称「背負子投（しよいこなげ）の難所」を過ぎてすぐに、進行方向に向かって左側がすっぱりと切れた崖になっている箇所があり、その右側の斜面で崖崩れが起きています。



背負子投の難所

裏面に続く

9合目から親不知子不知(おやしらずこしらず)入口まで

・この間には、強風時等にバランスを崩し、滑落の危険がある痩せ尾根を通過する箇所があります。

親不知子不知(ガレ場)

・通称「親不知子不知」は、ガレ場をトラバース(横断する)するルートになっており、目の細かな火山灰に浮き石がまじり、不安定な状況でバランスを崩すと滑落の危険があります。また、その上部には山体が激しく崩壊している岩壁があり、時に落石が発生しています。

・残置している黄色と黒のロープは、ルートガイド(目印)

用として使用していたもので、落石を受けていることもあるため、補助ロープのようには頼りになりません。

・この区間の通過には、予知できない落石等に備え、登山用ヘルメット等の着用をお勧めします。



痩せ尾根



親不知子不知入口



親不知子不知中間



落石源となっている崩落地

親不知子不知終点から合流点まで

・親不知子不知を抜けてからは、合流地点まで直登やジグザグするコースとなり、上部からの雨水等の浸食を受けることから、非常に荒れやすくなっており、土砂崩れがあちこちで起きています。また、先行の登山者による落石も予想されます。

鴛泊登山道との合流点から頂上まで

(鴛泊登山道・杓形登山道共通)

・登山道脇の地盤が崩れやすくなっている箇所には進入禁止の黄色と黒のロープを張ってありますが、そのロープにつかまったり、その先に立ち入ることは絶対にしないで下さい。
・火山灰の箇所は足場が不安定で、すべりやすくなっていますので、補助ロープを利用しながら強風時などは慎重に通過することが必要です。

・頂上手前の地盤が崩れやすくなっていますので、ルートガイド用の黄色と黒のロープに沿って通行して下さい。

・頂上周辺の進入禁止箇所には、黄色と黒のロープを張っています。祠の後方へは絶対にまわらないで下さい。また、南峰は立入り禁止となっていますので絶対に立ち入らないで下さい。



侵食の激しい直登部分



火山灰が剥き出しの合流点

更に詳細な情報については、以下までお問い合わせください。

問い合わせ先：利尻町産業建設課 電話 0163-84-2345